

Vol.8

形成外科

［牧田総合病院広報誌］



Vol.8 形成外科

2021年の牧田総合病院の移転とともに形成外科が常設されました。当初は常勤医1名体制でしたが、2022年4月、2023年4月に常勤医師が1名ずつ増え、現在は形成外科専門医4名（常勤医3名、非常勤医1名）の体制となりました。

形成外科の手術部位は、頭皮・頭蓋骨から足の爪まで、全身の治療に及びます。内容は顔面、四肢外傷、腫瘍、瘢痕ケロイド、変性疾患、乳房再建、難治性潰瘍、先天奇形、美容と幅広く、紹介患者数・手術件数ともに年々増えてきております。上記の内容以外でも、形成外科で治療できる疾患は数多くあります。例えば、陥入爪（根治術、ワイヤー矯正）、臍ヘルニア、女性化乳房症、陥没乳頭、腋臭症・多汗症（根治術、外用療法、ボトックス治療）、眼瞼痙攣・顔面痙攣（ボトックス治療）、包茎なども治療可能です。

また、外傷後の瘢痕も積極的に治療を行っております。傷痕は仕方のないものだと放置されることが非常に多いです。例えば、皮膚の拘縮を伴う熱傷瘢痕、白唇と赤唇に段差が残ったまま治癒した瘢痕、顔面の目立つ肥厚性瘢痕、遊離縁（鼻孔縁、耳介、口唇など）にノッチを伴った瘢痕などです。（症例写真参照）小さな瘢痕であっても気になることが多く、瘢痕に伴う掻痒や疼痛が残ることもあります。ご気軽にご相談ください。どの医師でも診察、治療可能です。

得意分野・専門医等

部長/宮邉（みやべ）　健太（けんた）

・乳房再建　・顔面外傷/顔面瘢痕　・難治性潰瘍

医員/伊藤（いとう）　靖浩（やすひろ）

・眼瞼眼形成　・鼻形成　・美容外科　・乳房再建

医員/竹内（たけうち）　誠也（せいや）

・皮膚良性腫瘍/皮膚悪性腫瘍
・ケロイド/瘢痕拘縮　・アンチエイジング



紹介患者数と手術件数の推移

2021年は488件（4月-12月）、2022年は898件、2023年は1236件【全身麻酔324件、局所麻酔912件（入院局所麻酔101件、外来手術811件）】

※日帰り手術から全身麻酔による入院手術まで行っております。



紹介需要が最も増えた手術（2023年）		
難治性潰瘍の手術	合計	108
重症感染（壊死性筋膜炎・フルニエ壊疽、その他）		25
足壊疽		22
SSI		22
膿皮症		14
褥瘡		11
外傷		9
頭皮頭蓋感染		5
眼瞼周囲手術（※変形疾患）	合計	104
眼瞼下垂		67
睫毛内反		13
埋没法		10
クマ取り		11
眼瞼外反		3
瘢痕・ケロイド・瘢痕拘縮手術	合計	31
W形成術		14
Z形成術		8
植皮		4
その他		5

Next
Operation

Operation before after

瘢痕拘縮、傷と傷痕、肥厚性瘢痕とケロイド

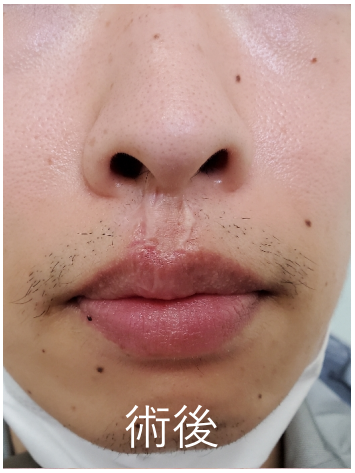
手背熱傷後の瘢痕拘縮（植皮術）





人中部のケロイドと赤唇縁の段差（植皮術）





類部の肥厚性瘢痕（W形成術）









鼻孔縁のノッチ（Z形成術）





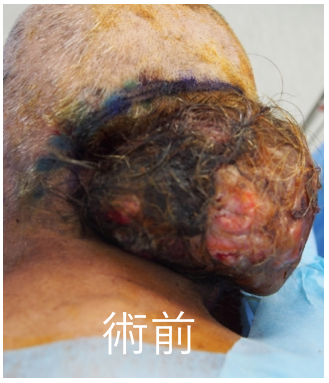
Operation before after

皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、軟部組織腫瘍

悪性外毛根鞘腫（皮膚悪性腫瘍切除、センチネルリンパ節生検、植皮術）

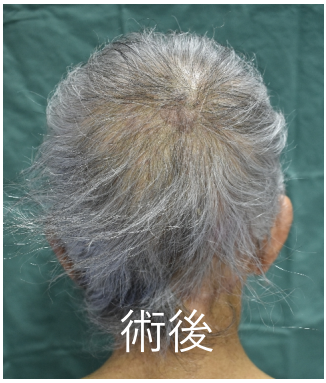
センチネルリンパ節生検やリンパ節廓清を含めた悪性腫瘍切除と再建を行っております。
各種皮弁（局所皮弁、筋皮弁、動脈皮弁、遊離皮弁）や植皮術、骨・軟骨移植などを用いて全身の再建を行っております。

また、良性皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍（母斑、脂肪腫、血管腫、血管奇形、神経鞘腫、ガングリオン、粉瘤、手や頭蓋の外骨腫、耳下腺腫瘍、眼窩内腫瘍、黄色腫など）については、大さや部位によっては切除と同時に再建を行います。炭酸ガスレーザーによる切除も対応可能です。眼球の後面にある眼窩内腫瘍は、３Dプリンターを用いた立体モデルを作成し、腫瘍までのアプローチをシミレーションします。腫瘍の位置によっては、顔面骨の骨切りをして腫瘍までアプローチし、マイクロ顕微鏡を用いて腫瘍を摘出します。







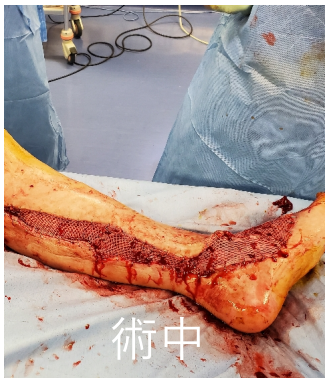


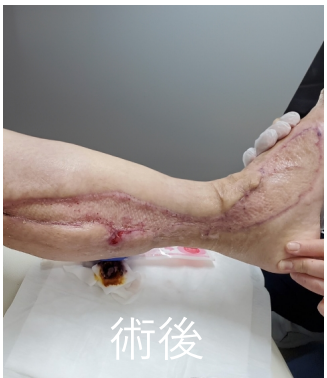
難治性潰瘍

壊死性筋膜炎（デブリードマン、植皮術）









当院では糖尿病性足壊疽、閉塞性動脈硬化症、静脈うっ滞性皮膚炎、重症軟部組織感染症、蜂窩織炎、褥瘡、骨髄炎、異物感染などの様々な病態の難治性潰瘍を治療しています。

2021年11月より、下肢虚血の血流の程度を評価する皮膚組織灌流圧（SPP）検査を導入しました。新たに導入したSPP検査と、下肢動脈エコー並びに下肢静脈エコー等を用いて、難治性下腿潰瘍の原因を調べ、重症度を評価し、治療をいたします。

2021年に販売された国内初の**超音波デブリードマン機器**を導入しました。

高気圧酸素治療やレオカーナ、局所陰圧閉鎖療法を効果的に取り入れております。高気圧酸素治療は、創傷治癒の促進効果、殺菌効果、血管再生因子の増加効果を認め、重症軟部組織感染症や骨髄炎、末梢循環障害による難治性潰瘍の補助的治療を行います。レオカーナは、2021年から日本で臨床使用が可能となった下肢虚血の最新治療です。フィブリノーゲンとLDLを吸着除去することによって創傷治癒を促します。

Operation before after

手の外科（神経縫合手術、神経移植術、腱縫合手術など）

欠損した母指の再建術









切断指の再接合



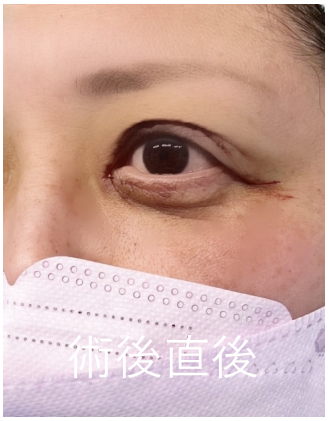






眼瞼下垂





耳介の変形（折れ耳）









Latest equipment

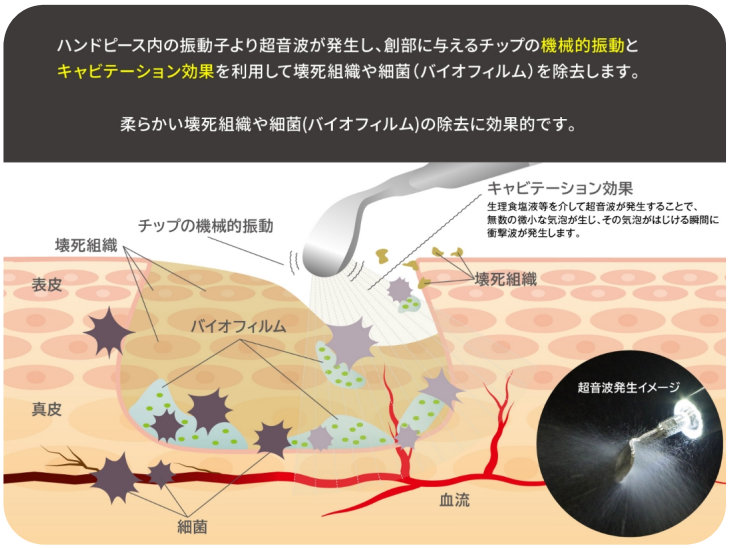
超音波デブリードマン機器

急性創傷や難治性潰瘍などの慢性創傷は数多く、デブリードマンの手術を行う件数は増加傾向にあります。（2021年30件、2022年65件、2023年75件）

当院では2021年に販売された国内初の超音波デブリードマン機器を導入しました。超音波デブリードマンは、2022年の診療報酬改定により保険収載が可能となった術式です。

超音波により衝撃波を発生させ、壊死組織やバイオフィルム（細菌の集合体）を除去します。選択的に壊死組織とバイオフィルムを除去するため、出血も少なく、低侵襲なデブリードマンが可能です。熱傷、褥瘡、糖尿病性足壊疽、末梢動脈疾患、頭皮頭蓋感染、外傷後感染創と幅広い場面で活用できます。

臨床研究によると、超音波デブリードマンありの群は、なしの群と比べて、バイオフィルム除去率が有意に高い結果となっています。（超音波デブリードマンありのバイオフィルム除去率65％、超音波デブリードマンなしのバイオフィルム除去率38.9％）また、超音波デブリードマン群の治癒率は54％であり、コントロール群13％と比べて優位に高い結果を示されています。







Next
Vol.9　高気圧酸素療法





牧田総合病院
Makita General Hospital

〒144-8501 東京都大田区西蒲田８丁目２０－１
TEL（代表）：03-6428-7500
TEL（医療連携室直通）：03-6428-7510　FAX（医療連携室直接）：03-6428-7511
月曜日～金曜日 9:00～17:00（土・日・祝日を除く）
※外来診療表はQRコードからご確認頂けます